

2023年8月28日(月)

名古屋大学東山キャンパス・文学部本館・大会議室 110号室

AAAプロジェクト 第三回研究集会

13:30-15:30 第2班&第5班の合同企画 (司会 武田宙也 議事録 二宮望)

武田先生:

発表者の紹介

近藤先生: フランスの自然哲学を中心に研究をされている、『人類史の哲学』を今年刊行

「新しい自然哲学に向けて-ダナ・ハラウェイのフェミニズム・サイエンスとグレーバーの基盤的アナキズム、ラトゥールのANTを媒介に」(近藤和敬)

近藤先生:

(タイトルの修正: ハラウェイを扱えない)

今回は基本的なことだけ、著書『人類史の哲学』では資本主義の話など発展的な話題も盛り込んである

問題: 社会性の自然化

神経生理学者(入来先生)との対話

→社会性を自然化するときの自然概念それ自体が、すでに近代に固有の社会性のなかで意味をもつように設計されている。

近代社会のエンジンとは異なる方向性で、社会性を組織化するエンジンへとそれらの概念を組み変える。

典型的には、自然権、自然法、自然法則、自由意志といった諸概念を徹底して批判することになる。これらにはすべておなじ「自然」という言葉で使われている、中世においてこれらは繋がっていた。

テーゼ1: 無限の差異と特異性と共通部分

- ・アприオリにあるのは無限の差異だけ
- ・特異性は己の存続のために、己が巻き込み／巻き込まれている他の特異性とのあいだに、あるスケール=リズムにおいて共通部分を現実化する。

テーゼ2: 異律

- ・自他未分=境界の不確定性、目的の非自己中心性、対称的關係性(非階層性: 子供の鬼ごっこ)

2023年8月28日(月)

名古屋大学東山キャンパス・文学部本館・大会議室110号室

→遊び：ルールの措定と従属が同時)である。

テーゼ3：異律的な主体

・人間は、自分と同じ人間の他者が、自分と同じように目の前にいる他者の表象を原因としてイマジナチオ(想像力)を作動させているということをそれ自体を表象できるだけ十分に余力のある脳神経系を生み出してしまったことによって、その空白を対象化可能となったことが、異律的な主体であることを可能にする。

未規定性(何をしても良い)

テーゼ4：相互行為の組織化の微分要素

・多数の異律的な主体によって形成される多様な相互行為の組織化を、相互行為の微分要素の積分として理解する。対称性/非対称性、負い目
あるルールに対して対称性じゃなかったことにできる

テーゼ5：相互行為の基本積分：社会経済の統合形態

人間の社会形態の統合形態(ポランニー)として、四つを基本構造として理解することができる。

1. シェアリング(共食：大村敬一のイヌイット研究)：対称性、負い目の排除
2. 互酬制(M.モース)：対称性、負い目あり(負い目の送りあい)
3. 資本制：非対称性、負い目あり(負い目の無限蓄積)
4. 再分配(メソポタミア)：非対称性、負い目の消滅